

平成 28 年度 事業報告書

事業の概要

平成 28 年度は、次の事業を実施した。

1. フォーラム「メンタルヘルスの集い(第 31 回日本精神保健会議)」の開催

今回の「メンタルヘルスの集い」では子どもの虐待をテーマに取り上げた。平成 27 年に全国の児童相談所が対応した虐待件数は、前年比 16.1%増で 10 万件を超えた。一方で市町村、福祉事務所、保健所、警察など行政や保育園・学校などの教育機関に医療機関、そして市民の虐待への意識は高まり、要保護児童対策地域協議会などで協働して対応するシステムが整備されてきている。多くの医療機関では小児科、産科に精神科も交えた虐待対応チームを編成し、また地域母子保健では、第 2 次健やか親子 21 の重点課題「妊娠期からの児童虐待防止対策」を受け、一次予防、二次予防、三次予防とセイフティネットを強化している。こうした様々な関連機関や多くの関係者の努力で、虐待防止の成果を出せるもう一步の所まで来ている。そこで、児童虐待を防止し、その連鎖を断ち切るためのもう一步には何が必要か、何をすべきかを探るべく、虐待防止に携わる小児科医、精神科医、保健師、臨床心理士、弁護士など多職種 of 専門家を講師に迎え、以下のような内容でフォーラムを実施した。

実施にあたっては上別府圭子理事を委員長に、市川宏伸、岡本淳子、林直樹の各氏に準備委員を委嘱した。

なお、本フォーラムは「平成 28 年度健康や命を守る医療の活動」として、公益財団法人 J K A より競輪公益資金の補助を受けて実施した。

メンタルヘルスの集い (第 31 回日本精神保健会議)

日 時：平成 29 年 3 月 4 日 (土) 10:15~16:00

会 場：有楽町朝日ホール (東京都千代田区有楽町 2-5-1)

テーマ：子どもをめぐるみんなの課題～虐待の連鎖を断ち切る～

内 容：特別講演 子どもの虐待と脳科学

友田明美 (小児科医、脳科学者、福井大学子どものこころの発達研究センター教授)

: シンポジウム 子どもをめぐるみんなの課題～虐待の連鎖を断ち切る～
シンポジスト

山下 浩 (児童精神科医、さいたま市児童相談所)

塩之谷真弓 (保健師、愛知県新城保健所健康支援課)

白川美也子 (精神科医、臨床心理士 こころとからだ・光の花クリニック)

馬淵泰至 (弁護士 カリヨン子どもセンター)

コーディネーター

岡本淳子（国際医療福祉大学大学院）

林 直樹（帝京大学医学部附属病院精神科）

総合司会 池田真理（東京女子医科大学）

参加者：336名

このフォーラムの内容は本会の広報誌「心と社会」168号（平成29年6月発行）に収録する。

2. 精神保健シンポジウムの開催

全国の主要都市において、その地域の大学・精神保健関連団体等と共催で、地域が直面する精神保健に関する課題等をテーマにシンポジウムを開催しているが、本年度は下記のとおり実施した。

①第69回精神保健シンポジウム（富山）

日時：平成28年7月2日（土） 13：00～16：30

会場：富山大学黒田講堂（富山市五福3190番地）

共催：富山大学大学院医学薬学研究部（医学）神経精神医学講座（鈴木道雄教授）

テーマ：認知症を知り、支え、つながる

：基調講演

「レビー小体型認知症の臨床と介護」

小阪憲司（横浜市立大学名誉教授）

：シンポジウム

「平成26年度富山県認知症実態調査から見えてきたこと」

木戸日出喜（木戸クリニック院長）

「谷野呉山病院認知症疾患医療センターについて」

島崎正夫（谷野呉山病院認知症疾患医療センター専任医師）

「小矢部市の認知症支援の取り組み」

金岡亨子（小矢部市健康福祉課長）

「レビー小体型認知症の実母と過ごした半年間の軌跡」

平尾 隆（富山県高岡市 男性介護者の会「みやび」代表）

「レビー小体型認知症を支えるつながり」

鬼頭恵津子（グループホームはるた施設長）

：パネルディスカッション

司会 竹内登美子（富山大学大学院医学薬学研究部老年看護学講座教授）

鈴木道雄（富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座教授）

参加者：145名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」166号（平成28年12月15日発行）に収録した。

②第70回精神保健シンポジウム（高松）

日 時：平成28年8月24日（水） 13:00～16:30

会 場：香川大学医学部臨床講義棟（香川県木田郡三木町池戸1750-1）

共 催：香川大学医学部精神神経医学講座（中村祐教授）

テーマ：社会と繋がる認知症

内 容：対談 認知症を支える家族の立場から

瑞田信弘（稱讚寺住職）

中村 祐（香川大学医学部精神神経医学講座教授）

シンポジウム 若年性認知症の支援

「若年性認知症支援の施策」

安藤正純（香川県健康福祉部長寿社会対策課課長）

「若年性認知症の在宅支援」

松原文子（高松市社会福祉協議会事務局次長）

「支援者グループの立場から」

野上貴史（社会福祉法人守里会施設長）

「実際に支援を受けて」

好井貞夫（当事者）

「認知症の方への支援」

松木香代子（認知症の人と家族の会香川県支部世話人代表）

パネルディスカッション

司会 角 徳文（香川大学精神神経医学講座）

トーク&コンサート ～響命～

岡野弘幹（音楽家・演出家）

座長 中村 祐（香川大学医学部精神神経医学講座教授）

参加者：104名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」167号（平成29年3月15日発行）に収録した。

3. 広報誌「心と社会」の発行

今日の精神保健福祉が直面する重要課題を取り上げるとともに、国内や海外の精神保健福祉に関する最新情報を掲載した広報誌「心と社会」を次のとおり発行した。

なお165号と166号は「平成28年度健康や命を守る医療の活動」として公益財団法人JKAより競輪公益資金の補助を受けて、各600部を追加発行し関連団体・施設等に配布した。

①164号（平成28年6月15日発行） A5判148頁 2,000部

特集 メンタルヘルスの集い（第30回日本精神保健会議）

- 「精神疾患を持つ人の健康と寿命～生き生きと暮らし続けるために～」
- ②165号（平成28年9月15日発行） A5判130頁 2,600部
 特集 IT技術とストレスチェック
- ③166号（平成28年12月15日発行） A5判130頁 2,600部
 特集 第69回精神保健シンポジウム（富山）
 「認知症を知り、支え、つながる」
- ④167号（平成29年3月16日発行） A5判136頁 2,000部
 特集 第70回精神保健シンポジウム（高松）
 「社会と繋がる認知症」

4. 精神保健福祉関係冊子の出版

1) 今年度より、こころの健康シリーズⅦとして、現代社会の様々なメンタルヘルスに関連した問題を取り上げる「21世紀のメンタルヘルス」（B5判8頁）の刊行を開始し、以下のように発行した。なお、発行後はホームページに掲載し閲覧できるようにした。

- ①No.1 高齢者のグループリビングを推進する COCO 湘南の歩み
 NPO 法人 COCO 湘南理事長 西條節子 著
 平成28年6月発行 3,000部
- ②No.2 多世代型シェアの試みーコレクティブハウスとホームシェアー
 日本大学文理学部社会学科 久保田裕之 著
 平成28年9月発行 3,000部
- ③No.3 日本におけるひとり親家族の現状ー多様な家族の共生社会に向けて
 立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科 湯澤直美 著
 平成28年12月発行 3,000部
- ④No.4 スウェーデンでの子育て体験
 大谷地病院精神科 岸川淳子 著
 平成29年3月発行 3,000部

2) 格差社会とメンタルヘルスの発行

平成25年度から平成27年度にかけて発行した小冊子、こころの健康シリーズⅥのNo.1からNo.12を1冊に纏めた合本「こころの健康シリーズⅥー格差社会とメンタルヘルス」を平成28年12月15日に発行した。

A5判96頁 2,000部

5. 第7回国際自殺予防学会アジア・太平洋地域大会及び第40回日本自殺予防学会の開催

自殺対策基本法施行10周年を記念し、日本自殺予防学会及び第7回国際自殺予防学会アジア・太平洋地域大会組織委員会と共催で標記の会議を以下のとおり開催した。

- 開催目的 アジア各国、日本全国の研究者が、自殺予防対策はもとより、その背景にある精神保健に関する問題、心理社会的問題、教育・公衆衛生に関する問題等と、施策や最新の研究成果を討議し、精神保健の進歩・発展に貢献する。
- 開催期間 平成 28 年 5 月 18 日（水）～21 日（土）
- 開催会場 東京コンベンションホール
東京都中央区京橋 3-1-1 東京スクエアガーデン 5F
- 参加数 29 カ国地域 520 名
- 内容・成果 プレナリー11 枠、スペシャル・レクチャー2 枠、ワークショップ 5 枠、シンポジウム 17 枠、ランチョン・セミナー7 枠の他、官民合同の自殺対策基本法制定 10 周年記念国際シンポジウム、いのちの電話連盟も参加したヘルプ・ライン国際シンポジウムなど過去最大規模で実施し、自殺予防対策、対人支援活動、医療・社会システムの発展に大きく寄与するものとなった。
- 寄附金募集 本会議開催に関する寄附金を平成 27 年～平成 28 年に渡り募集し 9,060,000 円の寄附金を受領した。事業報告と会計報告をホームページに掲載している。

6. 公益社団法人日本精神保健福祉連盟の一員として国内の精神保健福祉諸団体と協力した。また、広報誌「心と社会」の海外ニュース欄にて世界の精神保健関連情報を紹介した。WFMH日本支部と情報交換を行った。